

学校教育目標

自ら考え 自らの力で 未来を切り拓く宮野浦の子ども ～自律・協働・創造～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



宮小だより



令和6年5月21日号

発行:酒田市立宮野浦小学校

学校とは

先月末の授業参観、学級懇談会、PTA 総会に多数のみなさんから参加いただき、大変うれしく思っております。限られた時間の中で子どもたちの様子をご覧いただき、各学年の発達段階に応じて、どのような活動を仕組んでいくのか、どのような学校をつくっていくのかをお話させていただきました。学校教育目標に掲げているように、「子どもたち自ら何を学ぶのか」ということを大切にしていきます。「これさえ覚えておけば正しく生活でき、よい社会をつくる力を身につけることができる」という確信を持てるものがなくなってきました。「先生はみんなよりたくさん知識を持っているから話を聞きなさい」では通用しません。それではどんな学校をつくっていけばよいのか、教職員は日々考えています。一人一台端末を持つ子どもたちが、「昔は本で歴史を勉強したんだって」と語る時代が来るかもしれません。しかし、インターネットが万能かと言えばそうではなく、ネットリテラシーや批判精神がなければ、根拠のない情報も信じてしまいます。情報をうまく操作すれば、みんながだまされてしまう世界も広がっています。実際に SNS は様々な情報があふれ、被害を受けている人もいます。このような環境の中で学校は、「教師が知識をどう教えるか」ではなく、「子どもたちの学びをどう育てるか」に重点を置き、本校で進めていく、『自学自習・マイプラン学習・フリースタイルプロジェクト』等の手法も鍵になります。

学びが起こるきっかけのひとつに「問い」があります。「何でそうなるの?」と子どもが問いを持ったとき、大人が「そんなこと気にしなくてもいいんだよ」と否定するのか、「すごいところに気づいたね。不思議だね」と寄り添うかで、子どもたちの興味・関心は変わっていきます。『イチゴを5個持っています。お父さんが何個かイチゴをくれたので13個になりました。お父さんは何個くれたのでしょうか。』この問題に対して「ぼくのお父さんは1個しかくれないよ!」と疑問を抱いた子どもにどんな寄り添いをするかはケースバイケースです。しかし、自分に関係のないことを数字だけで教えられ、自分なりの疑問や考えを止められることが、興味がなくなってしまうことにつながります。子どもたちが主体的に学ぶには、現実の生活の中に「問い」を見つけていくことが必要です。子どもたちの素朴な「問い」に対して、大人が思いつかない問いであり、それに共感することができるかどうかどうかが学びのスタートになります。これからの学校、子どもたちの成長に、保護者、地域、教職員、みんなで「学校をつくる」という視点で、これからも応援していただければと思います。



校長

